

成果の説明書

(氏名) 天羽 正継	(学部) 経済学部
1 重要事項 <ul style="list-style-type: none">・2019年6月1・2日に開催された日本地方財政学会第27回大会(会場:新潟市朱鷺メッセ)において報告(タイトル:「日本における地方債制度の創設」)を行った。・上記報告を基に作成した論文「日本における地方債制度の構想と創設」(日本地方財政学会編『地方における圏域行政・連携中枢都市圏(日本地方財政学会研究叢書第27号)』五紘舎、2020年3月)が刊行された。・昨年度に引き続き、従来からの研究テーマである日本の地方債の歴史的研究について、主として内務省地方局『地方財政概要』を基に、基礎的な統計データの構築を行った。・『新・港区史(仮称)』の第6章「税財政」の執筆者として、2019年9月21日に開催された会議に出席した。また、港区の決算報告書に基づき、同区発足以降における歳入決算額の推移のデータ整理を行った。	
2 その他の事項 <ul style="list-style-type: none">・ゼミでの成果<ul style="list-style-type: none">・第5期生の卒業論文集を刊行した。・第6期生のサブゼミ論文集「群馬県内の市町村財政分析～富岡市・甘楽町・上野村～」を刊行した。・2019年10月15日、栃木県立大田原高等学校にて出前授業(タイトル:「財政のしくみと日本の財政」)を行った。	
3 次年度以降の計画・抱負 <p>【研究】</p> <p>従来からの研究テーマである日本の地方債の歴史的研究を進めることに注力したい。特に上記のように、今年度も昨年度に引き続き基礎的なデータの構築に努めたが、完成には至っていないため、これを完成させることを次年度の目標としたい。また、『新・港区史(仮称)』については、次年度末が原稿のメ切となっているため、次年度は本格的に執筆を進める予定である。さらに、今年度からスタートした地域科学研究所の研究プロジェクト「地方都市中心市街地研究」についても、少しずつ研究を進めていく予定である。</p> <p>【教育】</p> <p>ゼミの3年生については今年度と同様、サブゼミとして群馬県内市町村の財政分析をテーマとして取り組む予定であり(次年度の研究対象は安中市、南牧村、東吾妻町を予定)、最終的には論文集としてまとめられるよう、自分自身も学びつつ指導を行っていきたい。4年生については例年通り、質の高い卒業論文集の完成を目指して指導を行っていく予定である。</p>	